

奥羽大学報



令和6年度 卒業証書・学位記授与式

目次

奥羽大学の理念・目的 / 2024年度卒業証書・学位記授与式	
祝辞	1
告辞	2
答辞	3
2024(令和6)年度学位授与論文題名一覧	4
2024年度卒業記念贈呈式 / 歯学部第48期謝恩会 薬学部第17期謝恩会	5
韓国の慶熙大学歯学部を歯学部教員が訪問 第76回奥羽大学歯学会の開催	6
東北地区歯科医学会で歯学部教員が発表 日本薬史学会2024年会で研究発表 / 2024年度第2回SD研修会 大河雅之日本臨床歯科学会東京会長による臨床セミナーの開催	7
小林初夫図書館長が聖徳大学で特別講義 小林初夫図書館長がいわき南警察署で講演 附属病院長の鈴木史彦教授が「会津・南会津地域歯科保健強化推進 研修会」で講演	8
郡山市立緑ヶ丘第一小学校で読み聞かせ 本多講師の記事が『毎日新聞』などに掲載 専門業務型裁量労働制に関する説明会の開催	9
自著を語る / 図書館の新着コーナーに展示	10
船山信次先生のご著書コーナー 薬学部 村田清志准教授が『医歯薬学系博物館事典』に執筆	11
附属病院 自衛消防訓練 / キャンパスの風景	12
ちょっと寄り道 / 薬学部新任教授紹介	13
同窓生のひろば / 人事	15
シリーズ薬用植物園だより1	16

179

通算 第304号

奥羽大学の理念・目的

理 念

高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな人材を育成する。

目 的

奥羽大学は、教育基本法(昭和22年法律第25号)並びに学校教育法(昭和22年法律第26号)に基づき、広く知識を養うと共に、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を育成し、国民の福祉と文化の発展に寄与することとし各学部はその目的は、次の各号のとおりとする。

1. 歯学部は、高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな歯科医師を養成する
2. 薬学部は、高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな薬剤師を養成する

2024年度卒業証書・学位記授与式

3月10日(月)、卒業証書・学位記授与式が、本学第2講義棟 第1講義室において挙行された。

式典は、多数の来賓のご臨席を賜り、保護者や教職員が参列し、厳粛に進行した。来賓を代表して、学校法人晴川学舎大桶志延理事長が祝辞を述べられ、清浦有祐学長が告示を贈った。卒業生を代表して、歯学部歯学科の栢本裕輝さんが答辞を述べた。

歯学部歯学科46名、薬学部薬学科55名に卒業証書ならびに学位記が、また大学院修了者24名に博士(歯学)の学位記が授与された。



学位記を授与された齊藤大輔さん(大学院)

祝辞

理事長 大 桶 志 延

本日ここに卒業証書並びに学位記を手にとられます皆さんと、そのご家族の方々に心よりお祝いを申し上げます。本日は、誠にありがとうございます。

皆さんにとりまして、今日までの長い間には多くの事を経験なされたことと思います。限られた時間では到底語り尽くせぬ程の数多の経験は、「思い出」という一括りの言葉にとどまることはなく、必ずや皆さんの人生に豊かな実りを齎す良質な肥料となってくれることを信じております。

とりわけ最後の学生生活である本学で、皆さんが「物事の本質を捉える大切さ」を学んで行ってくれば、私どもにとってこれ以上の喜びはありません。

何事も一朝一夕にできることばかりではありませんが、困難が全てではありません。今、自分



答辞を述べて、学位記が授与された栢本裕輝さん(歯学部)



学位記を授与された岩下姫夏さん(薬学部)

の前になすべきことがあれば、できぬ心配をするよりは、できたときの喜びを心に描いてやってみることです。失敗は成功の母、何度でも立ち直る努力を厭わなければ挫けることは恥にはなりません。今日の仕事を明日に延ばさず、今日の仕事としてやり遂げることです。一日一日実行し、繰り返し積み重ね続けていく先に、新たな可能性が生まれ目標は達成されます。

卒業生の皆さんが、常に良識と善意を備え、社会から望まれる立派な医療人となって、貢献されることを希っております。

結びに 本日御臨席されました皆様様の御健勝を祈念して祝辞といたします。

告辞

学長 清 浦 有 祐

本日ここに、令和6年度卒業証書・学位記授与式を厳粛に挙行できますことは、私ども奥羽大学にとりまして無上の喜びであります。歯学部歯学科より学士の学位を取得された46名の皆さん、薬学部薬学科より学士の学位を取得された55名の皆さん、さらに博士の学位を取得された24名の皆さん、心よりお祝い申し上げます。また、今日の日を迎えるにあたり、皆さんを温かく見守り支えてこられたご家族や保護者の皆様にも、深く敬意と感謝の意を表します。加えて、本日の式典にご臨席賜りました学校法人晴川学園理事長、大桶志延生先生をはじめとするご来賓の皆様方に、厚く御礼申し上げます。

皆さんが大学生活を送られたこの数年間は、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、多くの制約が課された時期でもありました。しかし、その困難な状況の中にあっても、皆さんは医療系大学に学ぶ学生としての誇りを胸に、ひたむきに学業に励みました。共用試験、卒業試験を無事に乗り越え、今日の輝かしい門出を迎えられた皆さんの姿に、私たち教職員一同は深い感動と誇りを感じています。

奥羽大学は1972年、故影山四郎先生により、東北初の歯科大学として東北歯科大学の名で創設されました。当時、東北地域では歯科医療を必要とする方々が多くいながら、歯科医師が圧倒的に不足している状況でした。その現実を憂い、影山先生は周囲の反対をも恐れず、確固たる信

念をもって大学を開設されました。1986年には大学院を設置し、1988年に奥羽大学と名称を改め、さらに2005年には薬学部を新設いたしました。本学はこれまでに歯学部から4,051名、薬学部から1,356名の学士、大学院から453名の博士を輩出し、皆さんもその一員として新たな一歩を踏み出すのです。

創立以来、本学の教育理念は「高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな人材の育成」にあります。私たち教職員はこの理念を胸に、日々教育に邁進してまいりました。この理念は、医療人としての皆さんが誇りと自信をもって社会に貢献する基盤であり、困難に直面した際に立ち戻るべき原点です。皆さんがその精神を忘れず、社会で力強く歩んでいくことを期待しております。

現在の日本社会は、「少子高齢化社会を切り拓き、高齢者が健康不安なく人生を楽しむことができる社会」の実現を目指しています。その達成においては、歯科医師や薬剤師としての皆さんの専門性と貢献が不可欠です。しかし、どれほど優れた技術や知識を備えていても、人間性を伴わない医療人は真の意味での社会的価値を提供することはできません。「人間性豊かな人材」であるためには、「徳」を持ち、清廉な志を掲げることが求められます。どうか皆さんは、各々の志を胸に刻み、その実現に向けて努力を惜しまない医療人として成長し続けてください。

私が常に心に留めている『貞観政要』の「三つの鏡」の教えを、皆さんに伝えさせてください。その一つ目、「人の鏡」は、他者の言葉を真摯に受け入れ、自己を省みて変革を重ねる姿勢を示しています。これからの人生において、周囲からの意見や助言を謙虚に受け止めることが、さらなる成長につながるでしょう。

二つ目の「銅の鏡」は、自身の姿を振り返り、常に明るく元気な表情でいることの重要性を説いています。皆さんが人々に希望と安心を与える医療人であるためには、心身ともに健やかであり続けることが何より大切です。

奥羽大学は、東北地方に深く根差しながらも、世界に向けて最先端の歯学・薬学の研究成果を発信し続けることを使命としています。卒業生の皆さんがそれぞれの地で歯科医師や薬剤師として大成され、社会に貢献されることを心から

願い、告辞とさせていただきます。

答辞

卒業生代表 歯学部 栢 本 裕 輝

早春の心地よい春風が郡山を駆け巡り、待ちわびた春の訪れを告げる今日この頃、私たちは卒業の日を迎えることができました。

本日は、このように晴れやかな卒業式を挙行していただき、卒業生一同心より御礼申し上げます。

また、理事長先生、学長先生をはじめ、ご来賓の先生方、関係各位の皆様のご臨席ならびに、激励のお言葉を賜り、誠にありがとうございます。

入学してから今日までの日々を振り返りますと長いと思われた六年間はあっという間に過ぎていき、何ものにも代えがたい一生ものの経験と学びを得ることができました。

桜が爛漫と咲き誇った六年前の四月、私たちは大きな期待と希望を抱き、奥羽大学に入学いたしました。勉強やサークル活動に励み、充実した大学生活を過ごしていましたが、新型コロナウイルスの感染拡大により、当たり前だった生活が突如として一変してしまいました。様々な制限を受ける中、先の見えない現実に不安を感じていました。しかし、諸先生方や大学職員の皆様の迅速かつ適切なご対応、志を同じくする仲間の温かい支えにより、私たちは、今まで経験したことのない事態を乗り越えることができました。

在学中、諸先生方には、講義や実習を通して優しく、熱心に教えていただき、未熟な私たちを導いてくださいました。また、お忙しい中であっても、私たちの質問や悩み事に対して親身に寄り添い、時に厳しく導いていただけたことは、感謝してもしきれません。

大学職員の皆様には、私たちが実りある学生生活を送れるようご尽力いただきました。卒業生一同心より感謝申し上げます。

そして、一番近くで温かく見守り続けてくれた家族の支えがあったからこそ、私たちは今日、卒業の日を迎えることができました。誠にありがとうございます。

本学の自然豊かなキャンパスにおいて、苦楽を共にし、切磋琢磨しあった友との日々は、かけ

がえのない時間となりました。そのためか、いざ卒業の日を迎えますと、私たちは将来への第一歩を踏み出せることに喜びを感じる一方で、一抹の寂しさを感じられずにいられません。

今日、私たちは奥羽大学を卒業し、それぞれが自分で決めた道を進んでいくことになります。その道すがら思い通りにいかず、壁にぶつかることがあるかもしれません。しかし、本学で積み重ねた経験や知識は、いかなる逆境をも乗り越える道標となり、輝かしい未来へと導いてくれるはずです。そして、日進月歩で変化する医療に真摯に向き合い、社会のさらなる発展に貢献していくとともに、「高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな歯科医師・薬剤師」という本学の教育理念を胸に刻み、これからも日々精進していく所存です。

本日までご指導くださいました諸先生方や大学関係者の皆様に厚く御礼申し上げるとともに、今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

最後になりましたが、諸先生方やご来賓の皆様の一層のご健勝と、奥羽大学の益々のご発展を心より祈念いたしまして、答辞とさせていただきます。

2024(令和6)年度学位授与論文題名一覧

学位取得者	専攻・講座	論文題名
齊藤 大輔	口腔組織構造生物学	ラット唾液腺におけるDUOX2の発現
渡邊 輝	顎口腔外科学	B16-BL6マウスメラノーマ細胞におけるHif1 α 過剰発現と細胞外微小環境の影響
宇根岡大典	顎口腔外科学	下顎埋伏智歯抜歯術が自律神経活動に及ぼす影響
梅村浩二郎	口腔感染症学	<i>Candida albicans</i> の重度免疫不全マウスに対する病原性発揮のメカニズム
大木 英俊	口腔保健学	歯周病原性細菌超音波破砕物が及ぼす歯肉上皮細胞における微生物感染への影響の検討
木村 楽	生体管理学	Relationship between dental procedure time and postoperative complications after pediatric general anesthesia
倉賀野 徹	顎口腔外科学	下顎埋伏智歯抜歯における精神性発刊に関する検討
小口 和貴	口腔機能回復学	Observation of the internal structure of the mandible related to implant placement in the mandibular anterior region
小松 憲明	口腔感染症学	<i>Candida tropicalis</i> の免疫不全マウスに対する致死性の発揮と炎症性サイトカイン産生誘導の脳
佐々木慎一	口腔機能回復学	連結固定に対する口腔インプラント応用の試み —下顎4前歯残存症例に対し犬歯部および第二小臼歯部に口腔インプラントを植立したモデルの三次元有限要素解析—
月田 友哉	生体管理学	The validation of expiratory air temperature monitoring in general anesthesia
西村昌一郎	口腔機能解剖学	Observation of the internal structure of the zygomatic bone related to the zygomatic implants
根本奈央子	顎顔面口腔矯正学	Research on Sleep Dynamics in Cleft Lip and Palate Patients Using Simple Sleep Testing
橋本 昌典	口腔保健学	歯周病原性細菌のヒト肺上皮細胞におけるTMPRSS2発現誘導機構の解析
橋本 有加	歯内・歯周療法学	ウルトラファインバブル水による根管洗浄の効果
松村 賢史	顎顔面口腔矯正学	口唇口蓋裂児に対する一期手術の学際的アプローチによる研究
三村 義三	口腔感染症学	<i>Candida glabrata</i> 感染に対する高血圧マウスの宿主応答
宮尾 益佳	口腔生理・生化学	B16-BL6細胞におけるSPARC 3' 非翻訳領域の働き
山崎 北斗	顎口腔外科学	ラット舌へのA型ボツリヌス毒素製剤およびエタノール注入における筋組織の組織学的変化
渡邊 聡	口腔感染症学	Pretreatment of mouse macrophage-like J774.1 cells with alendronate augments lipid A-induced IFN- β production via upregulation of cGAS expression
内藤 義久	歯科麻酔学	Relationship between dental procedure time and postoperative complications after pediatric general anesthesia
白土 貴之	生体材料学	ワンステップセルフエッチングシステムにおけるリン酸エッチング時間が接着強さと耐久性に及ぼす影響
下出 毅	有床義歯学	インプラント上部構造の設計が周囲組織に及ぼす生体力学的影响 —下顎遊離端欠損症例に対する三次元有限要素解析—
神庭 優衣	小児歯科学	カンジダ血症の新たなマウスモデルとしてのCB17/1crJc1-Prkdcマウス

2024年度卒業記念贈呈式

3月6日(木)、2024年度卒業記念贈呈式が午後1時より学長室にて行われた。歯学部代表の日黒翔太さん、薬学部代表の菅野里央さんから、卒業記念としてそれぞれ記念品が贈呈された。清浦有祐学長より、「教育および研究のために大切に使用していただく」との謝辞があった。



卒業記念贈呈式の様子



歯学部代表者の皆さんと記念撮影



薬学部代表者の皆さんと記念撮影

歯学部第48期謝恩会

3月10日(日)、卒業証書・学位記授与式後、午後6時00分より、郡山ビューホテルアネックス4階花勝見の間において、歯学部第48期謝恩会が開かれた。

大桶志延理事長、清浦有祐学長、瀬川洋歯学部長の挨拶の後、出席者全員の集合写真が撮影さ

れた。その後、鏡開きに続いて、福井和徳教授の乾杯の発声で会がスタートした。

卒業生たちは恩師や学友、保護者らと6年間の大学生活の感謝や思い出を和やかに語り合っていた。



挨拶する大桶志延理事長



歯学部謝恩会での共同セレモニー



出席者全員の集合写真

薬学部第17期謝恩会

3月10日(月)、卒業証書・学位記授与式後、午後5時30分より、郡山ビューホテルアネックス3階雲水峰西の間において、薬学部第17期卒業準備委員会の主催による謝恩会が開かれた。

謝恩会準備委員会委員長 菅野理央さんの開会のことは、大桶志延理事長、清浦有祐学長、押尾茂薬学部長、島貫大介薬学部同窓会会長の挨拶に続き、鏡開きが行われ、6学年主任の佐藤栄作教授の乾杯で会がスタートした。乾杯の後は、恩師や学友たちと和やかに語らい合っては別れを惜しんでいた。



薬学部謝恩会での共同セレモニー



挨拶する菅野理央さん

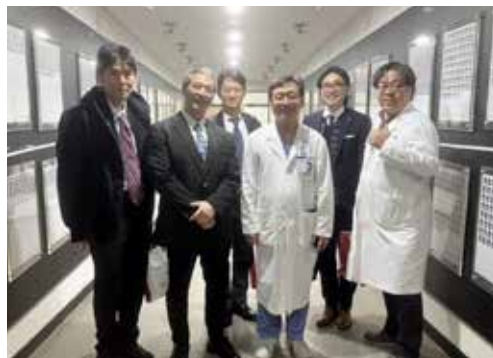


出席者全員の集合写真

韓国の慶熙大学歯学部を歯学部教員が訪問

韓国の慶熙大学歯学部と奥羽大学歯学部は、長年に渡り姉妹校として教員相互の学術交流や学生のクラブ活動を通じての交流など様々な試みを行ってきた。近年は新型コロナウイルス感染症の拡大によって相互に訪問することができない状況が続いていたが、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことから、人的交流を再開することになった。

その第一歩として、川合宏仁学生部長、山崎信也教授、山野辺晋也講師、御代田駿講師の4名が2024年11月21日(木)から24日(日)まで慶熙大学を訪問した。慶熙大学では歯学部長、副学部長、国際交流担当教授らと親交を深めることができた。この訪問を契機として、コロナ以前よりも活発な教員の学術交流や学生間の友情を育む取り組みを行っていく予定である。



慶熙大学にて

第76回奥羽大学歯学会の開催

第76回奥羽大学歯学会が、11月9日(土)に歯学部附属病院棟5階臨床講義室で開催された。多数の歯学部教員・大学院生・学部生が参加して、会場内は満席となった。当日は12の演題発表と1つの特別講演が行われたが、いずれも活発な質疑応答が展開された。発表者は、渡邊聡助教・神庭優衣助教・小松憲明大学院生・梅村浩二郎助教・三村義三大学院生・小口和貴大学院生・下出毅専攻生・白土貴之専攻生・橋本有加助教・齋藤大輔大学院生・山崎北斗大学院生・小角理央臨床研修歯科医で、特別講演は伊藤頼位薬学部准教授が行った。

東北地区歯科医学会で歯学部教員が発表

東北地区歯科医学会は東北6県の歯科医師会と岩手医科大学、東北大学、奥羽大学の歯学部で構成され、臨床症例等の発表、意見・情報の交換、知識・技術の研鑽等の場として、東北地区の歯科医療の進展及び歯科保健・医療の向上に貢献している。今年度は山形県歯科医師会を当番として、2024年11月30日～12月1日に山形県歯科医師会館で開催され、本学歯学部から教育講演1題、一般口演8題の発表があった。



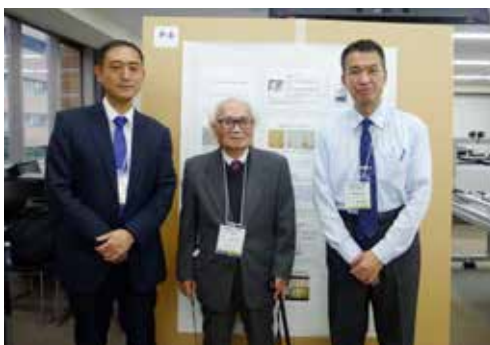
挨拶する瀬川洋歯学部長

日本薬史学会2024年会で研究発表

安藤勝 元図書館長、村田清志薬学部准教授、小林初夫図書館長が、11月2日(土)に帝京大学板橋キャンパスで開催された日本薬史学会2024年会で、「蒲生明：大正期の福島県で開局した薬剤師」と題して研究発表をした。高等学校卒業という学歴で、独学によって薬剤師になった蒲生明の地域医療に尽くした面と民間伝承などの郷土研究にも情熱を注いだ面に参加者は関心を示し、活発な質疑応答が行われた。また、安藤元図書館長が蒲生明について紹介した福島民報の連載記事も展示され、参加者は興味深く読んでいた。

発表要旨は日本薬史学会ホームページに動画で公開されている。

<https://plaza.umin.ac.jp/yakushi/movies/>



左から、村田清志准教授、安藤勝 元図書館長、
小林初夫図書館長

2024年度第2回SD研修会

2月28日(金)、2024年度第2回SD研修会が「本学教職員の健康管理」というテーマでオンライン開催された。講師は本学産業医の風間咲美医師が務めた。まず、2024年度職員定期健康診断結果について説明が行われた。異常を指摘された人が多かったのは、順に脂質異常症、肥満、高血圧症、脂肪肝、高尿酸血症、糖尿病、腎障害だった。これらの予防・改善には適正なエネルギー摂取および適正体重の維持が基本であり、有酸素運動が推奨されるとの助言があった。また、飲酒はしない方が良いという意見が最近が多いこと、健診(がん検診を含む)は、毎年、退職してから受診すべきであることも説明があった。次に、ストレスチェックの結果について、「総合健康リスク」、「量-コントロール判定」、「職場の支援判定」において本学(全体)は標準を下回り、概ね良好であったが、さらなる対策への提言が紹介され、その中でストレスは保健スタッフだけでなく、自身や管理監督者も常に留意していただきたいとの説明があった。

大河雅之日本臨床歯科学会東京会長による臨床セミナーの開催

奥羽大学歯学部第10期生であり、日本臨床歯科学会東京(SJCD東京)会長を務める大河雅之先生のセミナーが、3月7日(金)に開催された。「デジタル時代におけるベニア支台歯形成デザイン考え方」と題して、現在の歯科臨床における重要なテーマであるデジタル技術を活用した最先端の歯科治療についての貴重な講演が行われた。

大河先生は、今秋開催される第25回日本歯科医学会学術大会のシンポジストを務める他、国内外で精力的に活動し、年間6回以上の海外講演を行うなど、国際的にも高い評価を受ける卓越した臨床医である。

当日は、若手臨床教員や臨床研修歯科医を中心に多くの参加者が熱心に聴講した。講演後には活発な質疑応答が交わされ、参加者は世界水準の歯科臨床に触れる貴重な機会を得ることができた。本セミナーは最新の知見を学ぶとともに、臨床の可能性を広げる有意義な時間となった。

小林初夫図書館長が聖徳大学で特別講義

聖徳大学で12月14日(土)、小林初夫図書館長が特別講義をした。テーマは「東日本大震災被災地における方言教育の取り組み」で、玉懸元教授が担当する「日本語の方言Ⅱ」の学生が受講した。震災と原発事故により、今もなお多くの住民が避難生活を送っている福島県は、長期にわたる避難生活により、地域コミュニティの崩壊や世帯分離が起こり、方言の衰退が加速し、次世代への継承が困難になってきている現状を紹介し、そのような現状を踏まえ、方言の保存と継承を支援するためには、将来の地域社会と方言の担い手である子どもたちへの方言教育が有効であることを実際の授業の動画を使って解説した。学生らは熱心にメモを取り、真剣な表情で受講していた。



聖徳大学で行われた特別講義

小林初夫図書館長がいわき南警察署で講演

いわき南警察署で2月3日(月)、小林初夫図書館長が「福島県方言と茨城県方言」という演題で

講演した。福島県と茨城県の県境を管轄するいわき南警察署は県の境界が方言の境界にもなっていることから、両県の方言について理解を深めるために署員を対象に講演会を実施した。初めに言語地図で全国を概観してから、東北⇄関東、福島県⇄茨城県、いわき市⇄北茨城市とマクロの視点からミクロの視点に移行しながら方言の特徴を解説した。茨城県は関東地方であるが、東北地方に接しているため、ジとズ・チとツの混同、カ行・タ行の濁音化、イとエの区別がないことなどに東北方言の影響がみられることや、「雨」と「飴」、「橋」と「箸」を区別しない無型アクセントや尻上がりイントネーションなどは、福島県方言と共通している特徴であることを解説した。また、県境で分かれている方言と、そうでない方言があることに注意しなければならないことを具体的な語彙で説明した。署員は職務に生かそうと熱心にメモを取りながら真剣に聴講していた。



いわき南警察署で行われた講演会

附属病院長の鈴木史彦教授が「会津・南会津地域歯科保健強化推進研修会」で講演

令和6年度会津・南会津地域歯科保健強化推進研修会が1月22日(水)、福島県会津保健福祉事務所でハイブリッド方式により開催され、約40名が熱心に聴講した。歯学部附属病院長の鈴木史彦教授が、「歯周病・オーラルフレイルの基礎知識とその対応方法～働き盛り世代からのオーラルフレイル対策～」と題して、1時間半の講演を行った。地域の歯科医師や歯科衛生士だけでなく、保健師や介護職員等が参加していたため、歯科を専門としない聴衆にもわかりやすい解説が

行われた。



講演を終えた附属病院長の鈴木史彦教授

郡山市立緑ヶ丘第一小学校で読み聞かせ

読み聞かせボランティアの学生たちが、1月27日(月)と2月27日(木)に郡山市立緑ヶ丘第一小学校の特別支援学級を訪問し、読み聞かせを行った。学生たちは、『はらぺこあおむし』などのおなじみの絵本から、『ははのはなし』や『かばくのはみがき』など、歯に関する絵本の読み聞かせをした。また、歯の模型と大型歯ブラシを使用しての歯磨き指導や、歯に関するクイズも分担して行った。歯磨き指導では、一人ひとりが歯ブラシを持ち、学生の指示に従って正しい磨き方の個別指導を受けていた。子どもたちは、みんな笑顔で楽しそうに参加していた。

2回目の最後にはサプライズとして、このほど絵本を出版した本多真史講師が自著『まーくんのだじゃれどうぶつ園』を読んだ。登場人物になりきって声色を変えるなどの工夫を凝らした読み方に、子どもたちは集中して聞き入っていた。



1回目の様子

左から、金子ニキータ愛奈さん、中村愛さん、金田家治さん



2回目の様子

左から、中村愛さん、今村慎太郎さん、亀屋明日香さん

本多真史講師の記事が『毎日新聞』などに掲載

歯学部日本語学分野の本多真史講師に関する記事が、3月17日発行の『毎日新聞』1面に掲載された。「子供たちに贈りたい児童書特集」の1冊に、本多講師の絵本『まーくんのだじゃれどうぶつ園』が選ばれた。本多講師は、「自著が日本三大新聞の1面に掲載されて、大変光栄に思います。読者に笑顔を届ける主人公まーくんの冒険は始まったばかり。今回の全国誌に掲載されたことは、次への励みとなります」と話し、早くも次回作への意欲を見せている。

この他、上記に関係する記事は、『福島民友』(「絵本を出す長年の夢かなう」2025年1月31日8面)、同(「絵本で笑いと愛を」2025年2月2日4面)、『福島民報』(「家族の交流願ひ絵本を刊行」2025年2月7日16面)などにも掲載された。

専門業務型裁量労働制に関する説明会の開催

奥羽大学では、4月1日(火)から専門業務型裁量労働制を導入する。それに先立っての説明会が、2月27日(木)に歯学部及び薬学部の教員を対象に開催された。説明会では、清浦学長から専門業務型裁量労働制の概要と、本学での導入の意義、実際の働き方について詳しい説明があった。専門業務型裁量労働制の適用によって、教員が業務の遂行方法や時間配分を自分で決めることが可能となり、本学の教育と研究の質が向上すると期待される。

自著を語る

『まーくんのだじゃれどうぶつ園』

作 本多真史 文芸社 2025年1月刊行



願えば夢は叶う。いや、夢は叶えるものではなく、「描くもの」なのかもしれません。2025年1月15日、文芸社から絵本『まーくんのだじゃれどうぶつ園』を刊行しました。

幼少期、両親は私に絵本を読み聞かせてくれました。『からすのパン屋さん』や『ぐりとぐら』など、今でも多くの人に愛される絵本が枕元に並び、毎晩一冊ずつ読んでくれたことは、私の心に深く刻まれています。この体験は「かけがえのないもの」であり、

「私も絵本を出したい」という夢を描くきっかけとなりました。また、自身の子どもに読み聞かせをした経験から、家族のぬくもりの中で絵本を楽しむひとときの大切さを感じ、「絵本を出したい」という思いがさらに強くなりました。

その実現のきっかけは、2023年に本学の小林初夫図書館長から「出版社の広報担当者が来県しているよ」と声をかけられたことでした。私は担当者へ会いに行き、温めていた絵本の構想を披露しました。担当者の反応は上々で、話はとんとん拍子に進み、出版が実現しました。

絵本では、「だじゃれを言えなかったら即退場になる」というユーモアあふれる不思議な動物園を描いています。まーくんとパパ、ママの家族3人が園内を巡り、テンボよく発するだじゃれは、大人でも思わず吹き出してしまうほどです。東日本大震災と東京電力福島第1原発事故後に笑いが減ったと感じたことも、出版への思いを募らせた一因です。

「平成」という時代は、インターネットの普及などを通じてテクノロジーを大きく発展させました。この変化により、迅速なコミュニケーションが可能になった一方で、直接的にふれあう機会は減少していきました。本来、人間は他者とのつながりを確認し合いながら生きていく生き物です。現代の忙しい生活の中で、家族がじっくり向き合う場を大切にしてほしいという願いも、自著に込められています。

絵本は、豊かな語彙と感性を育む素晴らしい手段だと考えています。子どもたちや大人が自らの世界を広げ、想像力をかき立てられるに違いありません。また、幸せ探しのきっかけにもなるでしょう。自著を通じて、愛情あふれる交流を促進し、親子間の信頼関係の構築、さらには未来を担う子どもたちの健やかな成長に寄与できればと心から願っています。

あれから40年以上経った今、「希望」という種はゆっくりと成長し、ようやく一つの花を咲かせました。私の著書『まーくんのだじゃれどうぶつ園』には、両親に読み聞かせをしてもらっていた頃の心ふれ合う温かい時間が詰まっています。心の底から笑って、家族の絆を深める旅へ、皆さんも足を踏み入れてみませんか。



図書館の新着コーナーに展示

図書館では、本多先生から寄贈いただいた『まーくんのだじゃれどうぶつ園』を新着コーナーに展示しました。カラフルで楽しそうな表紙が目にとまり、手に取る人がたくさんいます。読んでいる人はみんな、くすくすと声がもれないように笑っています。この絵本は本多先生の絵本作家デビュー作であり、北は北海道から南は九州・沖縄まで全国一斉発売になりました。全国紙にも広告が掲載されています。図書館では広告も資料として保存します。

図書館

船山信次先生のご著書コーナー

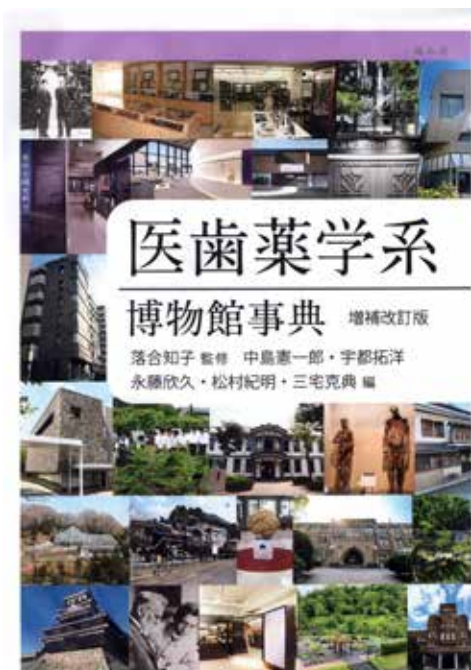
本学図書館の蒲生明文庫を高く評価してくださった日本薬史学会会長の船山信次先生は毒の研究の第一人者である。図書館では「船山信次先生のご著書コーナー」を設け、たくさんのご著書の中から、学生のみなさんにおすすめの10冊を展示している。どれも一般向けに書かれているので、とても読みやすく、身近な例が多いのでわかりやすい。薬学部はもちろん、歯学部のみなさんにもぜひ手に取っていただきたい。



- 『すごい毒の生きもの図鑑』 船山信次 中央公論新社
- 『絵でわかる薬のしくみ』 船山信次 講談社
- 『世界を変えた薬』 船山信次 講談社
- 『ヤバすぎる毒の図鑑』 船山信次 宝島社
- 『毒と薬の世界史』 船山信次 中公新書 中央公論新社
- 『禁断の植物園』 船山信次 山と溪谷社
- 『〈麻薬〉のすべて』 船山信次 講談社
- 『毒の科学 一毒と人間のかかわり』 船山信次 ナツメ社
- 『毒が変えた天平時代』 船山信次 原書房
- 『毒があるのになぜ食べられるのか』 船山信次 PHP研究所

薬学部 村田清志准教授が『医歯薬学系博物館事典』に執筆

2024年11月に出版された『医歯薬学系博物館事典 増補改訂版』（落合知子監修・雄山閣）に薬学部の村田清志准教授が本学薬用植物園の沿革・薬用植物の種類・研究の特色・教育活動について執筆した。この事典は全国の医学系・歯学系・薬学系などの博物館と薬用植物園324館園が網羅されており、この分野の研究の基礎資料になるものである。郡山市や市内企業と共同で取り組んでいることや、市内の高校と連携協定を結び、高校生の栽培研究をバックアップしていることなどが本学薬用植物園の特色であると村田准教授は紹介している。



『医歯薬学系博物館事典 増補改訂版』雄山閣

附属病院

自衛消防訓練

12月10日(火)、今年度2回目の自衛消防訓練が実施された。参加者は病院棟5階臨床講義室前ホールに集合し、1. 地震発生時の避難誘導、2. 火災発生時の通報連絡・119番のかけ方、3. 火災発生時の避難誘導、4. 救助袋による避難訓練の順に訓練を実施した。垂直式救助袋を利用した避難訓練では、新任教職員が積極的に参加していた。その後1階の玄関ホールに移動し、消防設備の取り扱い説明を受けた後、初期消火に有効な消火器による消火の訓練を実施した。今回の自衛消防訓練には40名の参加があり、参加者全員が有事に備え、真摯に訓練に臨んでいた。



垂直式救助袋での避難訓練



消火器による火元への消火訓練

キャンパスの 風景

嬉しくて嬉しくて言葉にできない

小田和正

2024年の秋、キャンパス内を歩いていた私は、テニスコートのある西の空に自然と視線が向いた。そこには、これまで見たこともないような、美しい空の風景が広がっていた。オレンジと紫が混ざり合った色彩はまるで絵画のようで、心を奪われた。思わずシャッターを切り、その瞬間を記録した。「同じ景色は二度と見ることはできない」という思いに駆られ、私は、その偶然の出会いに感謝した。

世の中は、いつも偶然であふれている。友人との何気ない会話、知らない場所での出会い、さらには小さな選択が大きな結果をもたらすこともある。しかし、これらの偶然が二度、三度と重なると、いつの間にかそれが「必然」と感じられることがある。私たちの人生も、そのような偶然の積み重ねなのかもしれない。

2025年3月10日(月)、125名(歯学部46名、薬学部55名、大学院24名)が本学を巣立った。小田和正氏の歌に「言葉にできない」という名曲がある。歌詞の中に「あなたに会えてほんとうによかった。嬉しくて嬉しくて言葉にできない」というフレーズが見える。緑あふれるキャンパスでの偶然の出会いが、卒業生の心に深く刻まれ、未来に向けての希望となるだろう。単なる瞬間が、やがて大切な思い出に変わり、皆さんの人生をより豊かにしてくれるに違いない。いつの日かそう思える日の訪れることを願っている。今はまだその一步を踏み出したばかりだが、これからの道のりも偶然と必然の交差点を楽しみ、歩んでいってほしい。

(撮影・文 本多真史)



美しい夕焼けとの偶然の出会い

ちょっと寄り道! 貸本屋

貸本屋は図書館(文庫)ではない。が、江戸時代にあつては庶民の読書機関として、図書館の代行機能的な機能をよく果たした。むしろ、図書館以上の活動をしたと言っても過言ではない。

貸本屋はいつ頃から発生したか詳らかでない。発生の背景には、本の出版との関係がある。江戸時代でも寛永期に入ると、整版印刷によって以前にも増して出版が盛んとなった。当時の『書籍目録』で出版点数を見ると、寛文6(1666)年では2589種類、寛文10(1670)年では3866種類、貞享2(1685)年では5934種類、元禄5(1692)年では7181種類である(長友千代治著『近世貸本屋の研究』による)。

出版点数が増えると読者が増える。本屋が商売として成立する。本屋は本を売るだけでなく、本の貸し出しも行った。特に、娯楽本や読み物類は、行商本屋から借りて読むスタイルが一般的になる。見料を支払って読むのが読書のならわしとなった。見料は本の種類や貸出期間によって異なるが、本の値段の3割から4割、好色物は2割増しというケースもあったようだ。貸本屋は、物の本あるいは娯楽本を笈箱や風呂敷に背負い、行商して歩く。こうして全国に本が届けられるという仕組みである。

天保の頃、江戸には貸本屋が800余軒あったという。家庭訪問したり、商家や武家、遊郭など本を読むお客を求めて行商した。名古屋の貸本屋大野屋惣八は、わが国最大の貸本屋であった。通称「大惣(だいそう)」といわれた。顧客まわりはしなかった。創業は明和4(1767)年、廃業は明治32(1899)年。本の種類も、娯楽的なものから学術的なものまでの全分野にわたり、まさに一大図書館の様相で、幕末には3棟の書庫が満杯であった。江戸や大阪にも知れ渡っていた。来店者には、明治の文化人だけでも二葉亭四迷、尾崎紅葉、幸田露伴、坪内逍遙、上田万年、水谷不倒などが記録されているという。廃業後の蔵書は京都大学、東京大学、帝國図書館、東京高等師範学校などで引き取られた。

(A)

薬学部新任教授紹介



薬学部 医療薬学分野
教授 杉田 尚寛

この度、2024年11月1日付けで、薬学部医療薬学分野教授を拝命いたしました。2024年1月1日の石川県能登半島地震

では私の自宅も震災の影響を受けましたが、日常の薬局業務と並行して、1月中旬から9月初旬まで地域避難所への支援活動を行ってまいりました。この期間、地域保健医療に関わる薬剤師の役割、災害医療と薬剤師の関わりを改めて学ぶ機会を得ました。このような経験は、今後の薬剤師教育に活かせると考えております。私は、地域の基幹病院に23年間、保険薬局に9年間勤務しました。病院勤務時代から「能登」、「石川県」という地域の医療において在宅医療の重要性に注

目し、地域の医療職の研究会などへも積極的に参加し、介護、栄養、摂食嚥下、口腔ケア等の分野にも学んできた知識を提供し、実践してきました。2003年から院内・院外でのNST(Nutrition Support Team)教育と啓発に取り組み、全国に先がけて医療従事者らを対象にNST合同合宿を企画して、その運営に関わりました。合宿では全国の医師はじめ多職種への症例作成・解説などを担当しました。今日、静脈栄養および経腸栄養に関する知識と経験が蓄積され、患者の早期退院が可能となっています。しかし、退院後自宅や施設に戻された患者は、栄養管理が不十分で再入院を余儀なくされる現状もみられます。私は病院でのNSTサービスが地域でも受けられるようにと、北陸地方での地域一体型NST活動と教育に取り組み、これらの取り組みがもたらす相乗効果や貢献できた教育内容を社会に発信して参りました。このような多くの経験と活動

をととして、私自身が「臨床で求められている薬剤師職能のあり方」を客観的に科学的な見方で考えることができました。私は、常に薬剤師として、「患者のために何ができるか、何をしなければならないか」を考え、職種の垣根を超えてチーム医療や多職種との連携などを広い視点で教育・研究しております。6年制薬学教育では、「薬剤師の基本的な資質と能力を修得し、その上で、生涯にわたって常に研鑽し、社会に貢献することが求められる」と考えます。このたび奥羽大学薬学部にて教育・研究の場を頂き、これまでの体験・経験をとおして、多くの薬学生の育成、大学から発信する地域貢献、卒後教育に努めてまいります。今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



薬学部 医療薬学分野
教授 鍋木 千里

本年1月より薬学部医療薬学分野教授を拝命いたしました鍋木千里と申します。郡山の地にご縁をいただきました事に心より感謝申し上げます。どうぞよろしくお願い致します。

年末に姫路から郡山に引っ越してきましたが、早々に郡山の風と雪と氷の洗礼を受け、通勤対策としてさまざまな氷雪対策グッズを揃え、なんとか1〜2月を乗り切ることができました。

自己紹介を少しさせていただきます。石川県金沢市で生まれ育ち、中学高校時代はバドミントン部に所属していたこともあり、体力には自信があります。高校卒業後、富山医科薬科大学(現富山大学)薬学部薬科学科に進学し、何か新しいことを始めたいという思いから弓道部に入部しました。学部卒業後はそのまま修士課程に進学し、和漢薬研究所の済木育夫教授のもとで薬用人参の抗腫瘍効果について解析を行いました。博士課程は東京医科歯科大学大学院医学系研究科に進学し、鏑田武志教授のもとでB細胞の活性化シグナル制御に関する研究で学位を取得しました。その後、日本学術振興会特別研究員PDとして、東京大学医科学研究所ヒト疾患モデル研究センターの岩倉洋一郎教授のもとでIL-1とうつ病・不安との関係についての研究に従事し、また、

国立精神・神経医療研究センター(NCNP)神経研究所・疾病研究第三部では功刀浩部長のもとで研鑽を積む機会にも恵まれました。このNCNPでのトランスレーショナルリサーチ経験を機に、薬剤師が病院で働くといふことが見えてくるのだろうか、と試してみたい気持ちが芽生え、一旦研究から退き、2016年から病院勤務を開始しました。病院の規模に関わらず、研究の種は至る所に存在するという事に気がつきました。

現在、附属病院薬局で半日勤務をさせていただいておりますが、歯科領域の不調で本院を受診され、原因不明と診断された患者さんのうち、他院で処方された薬剤が不調の原因ではないかと思われる症例が時々見受けられます。特に口腔は薬の副作用がよく現れる器官、と言っても過言ではありません。ですので、歯科医師、看護師、歯科衛生士の皆さんと「診断がつかない症例カンファレンス」ができれば、歯科の先生方のモヤモヤを晴らすお手伝いができるかも、と思ったのですが、ちょっと難しいでしょうか…。薬の種類の変更あるいは増減がその不調の原因かもしれない、というふうに、歯薬と一緒に考える習慣を学生のうちに学修できれば、奥羽大学独自の特色ある教育の1つになるのではないかと思います。

歯学薬学併設大学の強みとして、他の大学には真似できない教育・研究をアピールしていけるよう精進してまいりますので、御指導・御鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

同窓生のひろば

文学部



松浦 久美子(旧姓 鈴木)
(文学部3期生)

幼い頃から教員を夢見て大学に進学、臨時採用として夢の教壇に立ちました。大学在学中から看護師になりたいという気持ちも浮上し、思い悩んだあげく看護学校へ入学を決意し、現在看護師として大学病院で勤務しています。結婚し2人の息子にも恵まれ、日々あくせくした生活です。

気付けば、現代社会は働き方改革、ハラスメント、雇用体制、環境問題、少子高齢化、SDGs、ジェンダー等、現役の大学生の頃には想像もしない時代の到来を迎えています。多様性と柔軟性が叫ばれる中、人生100年とも言われる中でその折り返しを通過し、これからをどのように生きるかについて考えるようになりました。

心理学に興味があり、「学ぶなら形にしたい」と通信大学生として2年間過ごし、卒業間近の今日この頃。予定通り、認定心理士と産業カウンセラー受験資格を取得し、来期受験を目指しています。医療業界、特に看護師の離職率は、世情に背を向ける形で増大傾向です。産業領域での介入をすることで、看護職の確保につながればと感じています。また、看護の集大成かつ若き看護師育成の一端を担う目的で看護学部も専攻し、残すは学位取得の為に学位論文作成です。大学生の息子に、「大人の学び直しと聞くけど、まさかお母さんがやるなんて」「今更勉強して何がそんなに楽しいの」なんて言われています。再度大学生になって改めて感じています、人として学ぶことに年齢制限はありません。通信大学では、スクーリングや実験実習、Zoomでの講義やレポート、テストに、本当に欲張りしました。死生観、生命倫理を履修し、家族やきょうだいでなく、職業人として患者さん家族の立場に立ち、学びと経験の統合として実践できるよう、日々精進する姿勢を大切に過ごしています。

一度の人生です。支えてくれる家族や友人、仕事仲間や地域の方、周りの方々に感謝しながら…まだまだ、これからの人生の学びを目論みます。

人 事

<昇任>		新	旧	
南 健太郎	准教授	口腔衛生学	講師	10月1日付
松 本 知 生	准教授	歯科補綴学	講師	〃

<職務転換>		新	旧	
板 橋 仁	部長	財務部	准教授	11月1日付
			成長発育歯学	

<昇格>		新	旧	
佐久間 隆 道	部長	学事部	課長	10月1日付
			学事部	

<採用>				
杉 田 尚 寛	教授	薬学部		11月1日付
青 山 すみれ	看護師	病院医療部		〃
鎗 木 千 里	教授	薬学部		1月1日付
宗 像 里 咲	歯科衛生士	病院医療部		1月7日付

<定年>				
長谷川 淳 子	看護課長	病院医療部		12月3日付
國 分 真由美	看護主任	病院医療部		1月27日付
安 齋 真由美	看護師	病院医療部		2月25日付

<再雇用>				
長谷川 淳 子	看護課長	病院医療部		12月4日付
國 分 真由美	看護師	病院医療部		1月28日付
安 齋 真由美	看護師	病院医療部		2月26日付

<退職>				
池 田 敏 和	講師	歯科補綴学		10月31日付
大 橋 明 石	局長	事務局		〃
萩 原 貴 史	部長	財務部		〃
高 橋 圭	歯科技工士主任	病院医療部		〃
萩 原 覺 参	参事	財務部		12月31日付



ゲンノショウコ

奥羽大学薬学部附属薬用植物園は2005年に開設され、ヒマラヤスギ、あずま屋、池、芝地、園地を含む敷地面積は8,700㎡で、広場を中心に16の栽培区画を同心円状に配置し、90科250種の植物を栽培しています。同心円状右側(北東部)には日本薬局方収載の基原植物(アカヤジオウ、キバナオウギ、オケラ、カノコソウ、センキュウ、トウキ、シナマオウ、ミシマサイコなど)を、同心円状左側(南西部)には食品としても使われる植物(ウイキョウ、サジー、ハッカ、エキナセア、ラズベリー、ローズマリーなど)、オウレンなどの日陰植物はあずま屋の奥にあります。ニチニチソウ、キキョウ、サフラン、ミソハギ、ナルコユリなどの鑑賞花もあり、類似植物(ジギタリスとコンフリー)の説明や授業での活用、休憩場所などとして利用されています。その中から毎回一つずつ薬用植物を紹介しましょう。

1回目は日本の代表的な民間薬の一つゲンノショウコ(現証拠)です。ゲンノショウコはフウロソウ科の植物で葉には整腸作用を示す大量のタンニンが含まれており、健胃・整腸・止瀉作用があり、「現証拠」の名前のとおり服用すればすぐにはっきりとした効き目があらわれます。冷たくして飲むと下痢に効きますが、短く煎じて温かくして飲むと便秘にも効きます。薬用植物は煎じ方、飲み方により効能が変わることはよくあります。見分け方は「猫の手」のような葉をしており、東日本では白い小さな花を咲かせ、西日本ではピンク色の花ですが効能に違いはありません。

(薬学部 村田清志)



薬用植物園



ゲンノショウコ



給付型 特待生 制度

最大**6**年間
学費
フルサポート
返納義務無し

キミのやる気と実力を存分に活かしてほしい。
医療人としての人生をここから始めよう。
人間性豊かな歯科医師、薬剤師になるために。

歯学部

薬学部

奥羽大学 **歯学部** **薬学部**

TEL. **024-932-9055** (歯学部)

TEL. **024-932-8995** (薬学部)

〒963-8611 福島県郡山市富田町字三角堂31番1
FAX. 024-933-7372 E-mail: info@ohu-u.ac.jp

奥羽大学 検索 www.ohu-u.ac.jp

奥羽大学 姉妹校 **東北歯科専門学校**

歯科衛生士科 **歯科技工士科**

(お問い合わせ先 企画・広報課) 〒963-8611 福島県郡山市富田町字三角堂31番1 FAX 024-933-7372 E-mail: info@ohu-u.ac.jp